

白鷺

粉雪舞う 凍てつく川面に立つぼくの

> 枯れゆく枝のような その身体

> > 絞り出す 醜い声は

全ての者を遠ざける

始まりは 小さな涙の欠片

心の中で大きく膨らみ 恨みや憎しみに変わった

悲しみを

誰が 責められるだろうか?

> 悲しみは 孤独を呼んでくる

> > けれど

孤独と言う名の友達は 悲しみさえも消してしまう





誰よりも醜い心が

悲しむ人に寄り添える 温かな優しさになっていく

> 笑えるように 幸せになるようにと

孤独がぼくの心に囁いてくる

粉雪舞う 凍てつく川面に立つ白鷺の

> 枯れゆく枝のような その身体

全てを捨てて 両手を広げ 大空高く舞い上がれ

失うものは何もない



